

## 6 附属図書館

### 1 平成15年度の運営目標

平成15年度は、下記5項目を附属図書館の運営上の重点目標とし、改善に取り組んだ。

- (1) 教育・研究活動を支援するため、図書、雑誌等図書館資料の系統的な収集整備を促進する。
  - ① 教育プログラムとの連携を図りつつ、教育用基本図書を重点的に整備・充実する。
  - ② 各研究科等と連携し、教員や大学院生のための研究用学術図書資料の整備・充実を図る。
  - ③ 教育・研究基盤としての電子ジャーナルの拡充・整備を図る。
- (2) 電子図書館システムの充実を図り、学術情報サービスの一元化を推進するとともに、学術流通をさらに活性化させる。
  - ① 研究プロジェクト報告、研究紀要、学位論文等の研究成果の電子図書館への登録の促進および登録方式の見直しを行い、電子的に発信される学術情報の拡充を図る。
  - ② 蔵書をオンラインで網羅的に検索できるように、目録データが未入力である和装古書、貴重図書等の遡及入力を推進し、全蔵書のデータベース化を図る。
  - ③ 学術情報文献データベースを拡充・整備し、教育研究支援を強化する。
- (3) 利用者サービスの充実を図る。
  - ① 自動貸出システムによる貸出サービスの迅速化を図る。
  - ② Web上のレファレンスデスクを充実させ、学内外の利用者が資料収集、情報入手が迅速に行えるようにする。
  - ③ 土曜日、日曜日、祝日における開館時間を拡大する。
  - ④ 地域住民等学外者への貴重資料等の公開を推進し、図書貸出サービスについても検討する。
  - ⑤ 医学図書館の時間外利用の拡大を目指す。
- (4) 図書館施設を整備・拡充し、利用環境の多様化、快適化を図る。
  - ① 配架スペース、資料保管スペースの確保および電子図書館機能充実のため、中央図書館の増築並びに医学図書館の増改築の実現を目指す。
  - ② 総合研究棟に研究開発および大学院生の学習・研究支援の拠点として、24時間開館の情報配信のためのブランチ設置を目指す。
- (5) その他  
法人化に向け、資産台帳の作成・整備を図る。

### 2 運営目標の実施状況

- (1) 図書館資料の整備・充実
  - ① 教育用基本図書の整備・充実  
授業担当教員に選定を依頼し、教育用図書1,328冊、学生希望図書296冊を、新たに国内で刊行された学術的な和書を組織的に収集するために運用している新刊学術和書4,971冊、洋書127冊を整備した。
  - ② 研究用学術図書資料の整備・充実  
教員、大学院生から購入希望が多い「特高警察関係資料集成」、「CD-ROM版聖語蔵経」、「マイクロ・フィルム版衆議院委員会議事録・参議院委員会会議録」をはじめ、当館の蔵書構成の上から不可欠な大型資料7点を整備した。
  - ③ 電子ジャーナルの拡充・整備  
電子ジャーナルについては、前年度に引き続きScience Direct (IDEALを併合)、SpringerLINK, Synergy, Nature等を提供するとともに、本年度は導入希望が多かったScienceを導入し、拡充・整備した。また、平成15年度のアクセス件数は、合計1,170,307件であった。
- (2) 電子図書館システムの充実

① 学位論文、研究プロジェクト報告、研究紀要等の研究成果の電子図書館への登録

登録率を向上させるため、学位論文授与者には郵送による個別勧誘を、学位授与式には直接出向き勧誘活動を実施するとともに、研究成果報告等についても同様の個別勧誘を積極的に実施した結果、平成15年度の電子図書館への登録件数は、学位論文119件、貴重書538件、研究成果報告105件、研究紀要3件で、前年度に比べ、登録件数がアップした。また、電子図書館へのアクセス件数は、学内1,194,304件、学外242,051件で、合計1,436,355件であった。

② 和装古書、貴重図書等の遡及入力 of 推進

全蔵書のデータベース化を図るため、平成15年度には、和装古書のうち哲学・文学・語学等の分野の遡及入力を進めるとともに、平成15年度科学研究費補助金により、日本中・近世古文書の入力を開始した。また、既蔵の韓国・朝鮮語資料約4,600冊をハングル文字で再入力を行い、利用者が直接ハングル文字を使って検索することを可能とした。

③ 学術情報文献データベースの拡充・整備

文献情報データベースについては、前年度に引き続き全学術分野をカバーするWeb of Science、化学物質データと文献を網羅するSciFinder Scholar、法律、ニュース、ビジネス情報を幅広く提供するLexisNexis、医学・看護学・薬理学等の関連領域の文献情報を検索できる医中誌Web等を運用するとともに、新たに朝日新聞戦前紙面データベース、読売新聞紙面検索のネットワークでの提供を開始した。

(3) 利用者サービスの充実

① 図書貸出サービスの充実

自動貸出システムによる貸出サービスの迅速化について、平成14年度末に自動貸出返却装置を中央図書館と図書館情報学図書館に導入し、平成15年5月から運用を開始した。中央図書館では遡及してバーコードの貼替を行い、3月末までに約10万冊（配架の約5%）が、図書館情報学図書館では全配架図書が利用可能となった。

また、貸出サービスについては、平成15年4月から土日祝日の貸出時間を13:30~17:30に、春季・夏季休業期間の貸出時間を9:00~16:30に延長するとともに、平成16年2月から図書を借りた図書館以外の図書館でも返却ができるよう改善を図った。

なお、平成15年度貸出冊数は、中央図書館274,805冊、体芸図書館39,729冊、医学図書館26,574冊、図書館情報学図書館28,640冊、大塚図書館7,952冊で、合計377,700冊（前年比7.3%増）であった。

② Web上でのレファレンスデスクの充実

利用者が資料収集、情報入手が迅速に行えるよう、Web上で検索した文献資料で所蔵していない文献資料をWeb上で複写依頼が可能となるシステムを構築し、運用テストを行った結果、学内教官に対して平成16年3月から運用を開始した。

③ 医学図書館の時間外利用の拡大

医学地区の医療従事者等から強い要望があり、図書館利用カードによる時間外入退館管理システムを導入するため、前年度に引き続き、概算要求を行ったが実現には至っていない。

(4) 施設設備の整備

配架スペース、資料保管スペースの確保および電子図書館機能充実のため、中央図書館の増築並びに医学図書館の増改築の実現を目指すため、前年度に引き続き、概算要求として中央図書館の増築、医学図書館の増改築及び無人入退館設備等を要求事項に挙げたが実現に至っていない。

なお、既存施設・整備については、ア)中央図書館本館内のトイレ改修工事（平成14年度からの継続工事）及び研究個室等スタンドの取替え、イ)医学図書館吹き抜け部分天井設置の照明設備改修工事、ウ)体育・芸術図書館1階北側書庫の空調設備取設工事、エ)医学図書館に図書貸出返却装置1台設置、オ)中央図書館内のブラインド取り替え等、利用環境の整備を図った。

また、総合研究棟に研究開発および大学院生の学習・研究支援の拠点として、24時間開館の情報配信のため

のランチ設置については、法人化後の体制を見据えたうえで、対応していくこととした。

#### (5) 社会との連携

附属図書館は、「開かれた大学図書館」を目指し、筑波研究学園都市内の研究者等をはじめ、学術研究・調査を目的とする18歳以上の学外者にも閲覧、複写、貸出等のサービスを積極的に提供している。平成15年度の学外利用者及び見学者は38,964人であった。

また、地域住民等学外者へ貴重図書等を公開するため、図書館事業として貴重図書等の常設展示と特別展示を毎年開催している。平成15年度は、中央図書館において、「筑波大学開学30周年（創基131年）記念附属図書館貴重図書特別展」を平成15年9月29日から10月10日まで開催し、1,243名の観覧者があった。さらに、地域住民の自発的活動意欲への支援の観点から、地域住民から図書館ボランティアを公募し、利用案内、視覚障害者に対する対面朗読、利用環境整備等の活動に協力してもらうとともに、ボランティア自身の生涯学習の場としても機能できるよう、各種研修会及び関連施設見学会を実施した。

### 3 附属図書館運営委員会の活動

平成15年度は、年間9回開催し、附属図書館の開館スケジュール、図書・雑誌購入計画、電子ジャーナル及び文献情報データベースの導入、概算要求事項、法人化に向けた附属図書館関連諸規則の制定及び年次計画の策定等について審議した。また、今年度は、附属図書館長を委員長とした「図書館資料整備に係る検討委員会」を設置し、電子的資料整備の基本的考え方及び電子的資料整備に関する改善案を作成し、学長に提出するとともに、電子ジャーナル・文献データベースのための予算等の在り方について検討した。

さらに、運営委員会に設置されている各種専門委員会においては、①蔵書構成専門委員会では、附属図書館資料の不用判定等、②電子図書館専門委員会では、学内研究成果等の電子化及び電子図書館への登録の促進、附属図書館研究開発室の設置等、③ボランティア専門委員会では、ボランティア事業計画を策定し、ボランティア活動の内容充実及び募集方法等について、それぞれ検討した。

その他にも、中央図書館、体芸図書館、医学図書館、図書館情報学図書館、大塚図書館、遠隔地センター及び学系等資料室の蔵書点検を実施し、図書の資産台帳を作成した。

### 4 自己評価と課題

平成15年度の運営目標であった、図書館資料の整備、電子図書館システムの充実、利用者サービスの充実、図書の資産台帳作成については、当初の目標を概ねクリアすることができた。また、以下の事項については、今後の課題として引き続き検討することが急務となっている。

- (1) 図書、雑誌、電子媒体等を系統的に整備するとともに、電子ジャーナル及び学術情報文献データベースに係る予算を全学共通経費として確立する。
- (2) 全学の情報システムと提携し、図書館情報システムの整備を図る。
- (3) 土曜日、日曜日、祝日の開館時間を拡大し、利用者サービスの拡充を図る。
- (4) 懸案となっている中央図書館増築及び医学図書館増改築の早期実現に努めるとともに、図書館施設の多様な利用形態について検討する。